

光が丘周辺地域小・中学校の 学習環境のあり方検討協議会

ニュース

令和元年12月発行
光が丘周辺地域小・中学校の
学習環境のあり方検討協議会

第5号

令和元年10月31日に開催した第6回検討協議会では、前回に引き続き、光が丘周辺地域の小・中学校（光が丘小、並木小、陽光台小、青葉小、緑が丘中）において、今後過小規模校が生じるなどの課題の解決に向けた意見交換、検討を行いました。



今回は、小学校区と中学校区の整合性に重点を置いた
具体的な再編案を基に、意見交換を行いました

《各委員からの主な意見》

【学校規模・学校施設】

- ・過小規模校になることが見込まれる小学校を現状のままとするのは、現実的でない。
- ・児童数が少ない小学校は、学区を広げて児童を増やしたらどうか。
- ・学校再編時に、児童生徒の数が学校によって片寄りがあると、規模の大きい学校や、数年後に過小規模校になる学校ができるなど、ばらつきが出てしまう懸念がある。
- ・学校施設に余裕のある小学校に、児童が多くなるように配分し、再編してはどうか。
- ・学校施設に余裕のある学校に再編することが、現実的である。
- ・小学校を4校から2校に再編した場合、将来、児童数が増えた時に対応できるのか。4校から3校に再編し、様子を見たらどうか。

【通学距離・学区】

- ・中学校区を変更すると、通学距離が長くなる場所がある。
- ・小学校と中学校の学区の整合性が取れた方が、不登校が無くなるのではないか。
- ・光が丘地域全体を緑が丘中学区にすると良いと思うが、上溝中、弥栄中、由野台中の生徒が減る。
- ・登下校時に村富線を渡らないように再編すると、安全面で良い。
- ・村富線を渡るのは危険という意見があるが、どこの学校が再編しても、安全対策をすれば、大きな問題はないと思う。
- ・陽光台1丁目から7丁目までを同じ学区にすると、陽光台公民館区と小学校区が一致する。

【小中一貫教育・その他】

- ・小学校区と中学校区が一致すると、小中の連携効果が高まる。
- ・中央地区に投げかける必要があるが、弥栄小・中学校を小中一貫校にして、並木小の児童も通ったらどうか。
- ・弥栄小・中学校を小中一貫校にして、そこに並木小の児童が行くと、馴染みの薄い中央地区の学校に通学することになり、不登校になったりしないかが心配。光が丘地区の小学校を卒業して、緑が丘中に入学した方が良いのではないか。
- ・中学校の適正規模等まで考えると、この検討協議会の中で収まらなくなる懸念があるので、中学校のことは後で考えたら良い。
- ・学校を複合施設にして、空き教室を利用できると良い。

今後の予定について

第7回以降の検討協議会では、これまでの検討協議会における複数の再編案に対する意見や議論を総合的に勘案し、光が丘地域の子ども達にとって、望ましい学習環境を実現できる再編の方向性を検討する予定です。



お知らせ

「光が丘周辺地域小・中学校の学習環境のあり方検討協議会ニュース」は、光が丘小学校、並木小学校、陽光台小学校、青葉小学校、緑が丘中学校の保護者の方に配付し、光が丘地域の自治会に回覧しています。

検討協議会の結果概要と資料は、市の行政資料コーナー、光が丘公民館、陽光台公民館、光が丘小学校、並木小学校、陽光台小学校、青葉小学校、緑が丘中学校でご覧いただけます。



事務局（お問合せ先）

相模原市教育委員会 教育局 教育環境部 学務課
電話 042 - 769 - 8282（直通）